

死化粧 (エンゼルメイク) 最期の看取り

エンゼルメイク研究会代表 元ナースの作家が描く「最期の顔」をめぐる小説集

死化粧【エンゼルメイク】

最期の顔を大切なものと考えた上で、その人らしい容貌・装いに整えるケア全般のこと。亡くなった方の髪を洗い、ファンデーションや口紅を使って、ご家族の心の中にある元気なころの面影を取り戻す。

～やすらかな顔で逝かせたい 逝く人と看取る家族の心にしみる七篇の物語～

エンゼルメイク研究会の代表として、亡くなった患者の生前の面影を取り戻す死化粧(エンゼルメイク)を、看取りの作業としてとらえなおすとともに、その普及に取り組む著者が、ナースたちから寄せられたエピソードをヒントに、臨終に立ち会った家族の視点から新たに構成して描いた7篇の物語です。患者そして遺族への最後のケアとして注目を集めているエンゼルメイクの実際が分かる貴重な一冊です。

「エンゼルメイク研究会」について

本書の著者・小林光恵さんが、美容研究家の小林照子さん、山口和子さんらと2001年1月にスタート。入院患者が亡くなった際に、闘病などで失われた顔の造作を整えたり、各部を清潔にしたり、化粧を施したりすることを「エンゼルメイク」と名づけ、看護職を対象にしたセミナーなどを主催するほか、エンゼルメイク用化粧品類の普及にも努めている。



タイトル:「死化粧(エンゼルメイク)
最期の看取り」

著者:小林光恵
発売日:2005年6月10日
価格:1575円(税込み)
発行:宝島社

- 1話 「縛らないで！」 顎を縛る習慣について
 - 2話 「うちが、いちばん」 自宅でできるエンゼルメイク
 - 3話 父さんの口の色 臓器提供をめぐる
 - 4話 合わせてほしかった 救急外来でのエンゼルメイク
 - 5話 「おかみの微笑だ」 特別養護老人ホームでの死
 - 6話 義母(はは)のにおい 病気によるにおいにつわる話
 - 7話 オヤジの顔 男性のエンゼルメイク
- 美しい最期 解説にかえて 玉木正之(スポーツ&音楽ライター)

【著者プロフィール】

小林光恵(こばやし・みつえ)

1960年、茨城県生まれ。

東京警察病院看護専門学校卒業。看護師として東京警察病院、茨城県赤十字血液センターに勤務。その後編集者を経て独立。現在は執筆を中心に活動している。著書に『ナースマン』(角川文庫)、『ナースのおしゃべりカルテ』(幻冬舎文庫)、『12人の不安な患者たち』(集英社文庫)ほか。マンガ『おたんこナース』(小学館)の原案・取材、NTV系テレビドラマ「ナースマン」の原案も手がける。編著書に『ケアとしての死化粧 エンゼルメイク研究会からの提案』(日本看護協会出版会)がある。

